

# いきいき

NO. 89

2026.8

発行  
寒河江市農業委員会



左から長岡絵美莉さん、長岡竜二さん

おいしさを未来へ、地域とともに

「長年、おいしいと評判をいただいていた『くだもの』が途絶えてしまうのは心苦しいと思った」と語るのは「長岡ファーム」（寒河江市谷沢）の長岡竜二さん。就農して7年目になる。

父の健一さんが大病を患ったことを機に、勤めていた設備会社を退社。健一さんのもとで2年間研修を積み、新たにスイートコーンの生産に取り組みながら就農した。

同農園では、さくらんぼやりんごなどの果物をはじめ、野菜も栽培しており、竜二さん夫婦と健一さん夫婦、さらに竜二さんの弟妹の家族が一体となって生産・販売を行っている。特にスイートコーンは、1週間間隔で播種を行い、7月下旬から10月下旬まで収穫が続くという。

「毎年天候が異なるため、品質や収穫量も変わる。毎々が勉強です」と竜二さん。奥さんの絵美莉さんは、主に受注管理やホームページの運営を担当している。販売は、通販サイト「食べチョク」やJAの産直などが中心で、「お客様からのレビュー（感想や評価）をいただけることが生産の励みになる」と竜二さん夫婦は笑顔で話す。

今年度発足した市内の農業者グループ「さがえ農人会」にも加入し、会員相互の情報交換や仲間づくりにも積極的に取り組んでいる。近年は谷沢地区でも耕作放棄地が増えつつあることから「耕作放棄地を再生し、地域の農地を守りながら地域を盛り立てていきたい」と今後の抱負を語ってくれた。



長岡ファーム  
ホームページ

# 農業委員 紹介

(写真の下は、氏名、役職、出身地区、在任期間)

## 第25期 寒河江市農業委員会 新体制でスタート

任期満了に伴い、応募や農業団体等から推薦がありました農業委員および農地利用最適化推進委員の候補者につきまして、農業委員は市議会の同意を得て寒河江市長から任命され、農地利用最適化推進委員は農業委員会総会で議決し委嘱されました。任期は、共に令和11年7月19日までとなっております。



木村 三紀  
会長  
白岩 10期

会長あいさつ

このたびの農業委員改選により、寒河江市農業委員会会長職に就任いたしました。

近年、農業を取り巻く環境は、農業従事者の高齢化や担い手不足、耕作放棄地や鳥獣被害の発生など、さまざまな課題が山積しております。

農業委員会として、農地利用の最適化を推進するとともに、関係機関と一体となって課題解決に取り組む、本市農業の持続的発展に努めてまいります。今後とも皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



山田 和義  
農業振興常任委員長  
広報委員長  
寒河江 3期



後藤 孝好  
農地常任委員長  
柴橋 3期



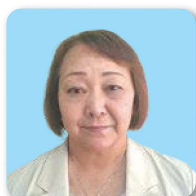
芳賀 宏  
会長職務代理者  
西根 3期



安孫子 智  
寒河江 2期



芳賀 孝博  
広報副委員長  
寒河江 1期



布施 功子  
農業振興常任副委員長  
高松 2期



鈴木 浩之  
農地常任副委員長  
西根 3期



高橋 憲明  
柴橋 1期



大泉 孝彦  
柴橋 3期



五十嵐 博志  
南部 1期



氏家 理香  
南部 3期



原田 義人  
寒河江 2期



西尾 沙織  
三泉 2期



鬼海 和幸  
醍醐 1期



郷野 富司男  
白岩 2期



眞木 早百合  
白岩 6期



熊坂 省吾  
高松 1期

# 農地利用最適化推進委員 紹介

(写真の下は、氏名、担当地区、在任期間)



熊坂 浩行  
柴橋2(柴橋1以外) 4期



渡邊 慎一  
柴橋1(柴橋) 3期



斎藤 幸宏  
西根 3期



武田 浩治  
南部 1期



小野 敏行  
寒河江 4期



秋場 淳克  
三泉 1期



大沼 勲  
醍醐 1期



菖蒲 修  
白岩 3期



伊藤 貴裕  
高松 1期

## 退任者へ感謝状贈呈

任期満了に伴い退任された農業委員および農地利用最適化推進委員6名の方へ、感謝状が贈られました。



前列右から  
猪倉 通文委員 (4期)  
片桐 道雄委員 (2期)  
影沢 政俊委員 (4期)  
後列右から  
渡邊 正委員 (3期)  
川越卯一郎委員 (3期)  
奥山 浩二委員 (3期)

## 委員の辞任について

高橋博委員が3月末で辞任されました。

長年にわたり農業委員会活動の推進に多大なるご貢献をいただいたことに深く感謝申し上げます。今後ますますのご健勝とご活躍をお祈りいたします。

## 農地を所有する皆様へ

### 農地の適正な管理をお願いします

農地は一度耕作をやめて数年放置してしまつと、原形が分らないほどに荒れてしまいます。

荒れた農地は、雑草・雑木の繁茂、病害虫、有害鳥獣の被害を誘発するだけでなく、不法投棄や火災発生の原因となる恐れがあります。

農地を所有されている方は、適正な管理をお願いします。

### 農地パトロールを実施します

農業委員会では、9月に農地の利用状況を確認するため、農地パトロールを実施します。

栽培管理や保全管理が適切でない農地は、利用意向調査を行うこととなります。

調査の際には農地へ立ち入る場合がありますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

農地の利用でお困りの方は、お近くの農業委員や農地利用最適化推進委員、農業委員会事務局へご相談ください。

## 梨の産地化、ブランド化を目指して

## いきいき Neo! 農業インタビュー

今回は、和梨のV字ジョイント栽培をしている芳賀祐介さんにお話を伺いました。

祐介さんは令和元年に就農し、今年で8年目。現在はご夫妻で、和梨30a、桃40a、さくらんぼ95aを栽培しています。

園地を訪れると、梨の枝が整然と並ぶ美しい光景が広がり、まず目を奪われました。

V字ジョイント栽培は、地上80cmほどの高さで横一直線に接ぎ木を行い、そこからV字状に枝を伸ばして栽培する方法です。接ぎ木をすることで樹勢が均一に



はが ゆうすけ  
芳賀 祐介さん（41歳）



なり、定植から3〜4年で収穫が始められるほか、一般的な棚栽培の2〜3倍の収量が期待でき、作業性にも優れるなど、多くのメリットがあります。

もともと和梨が好きだった祐介さんは、さまざまな栽培方法を調べる中で、一般的な栽培では収穫まで10年以上かかることを、3〜4年に短縮できるこの栽培方法を知り、導入に至ったそうです。

3年間の育成期間を経て、昨年は初収穫で2tほどの収穫がありました。手応えを感じており、2、3年後には6〜7tの収穫を目指しています。「若い人



にもぜひ勧めたい」とのことです。

今後については「さくらんぼに次ぐ梨の産地化、ブランド化を目指します」と力強く語ります。また就農以来、「農家で一人前になるまでは」と、多くの趣味を封印してきたそうです。

「今の楽しみは農業。一番うれしい瞬間は、お客様の声を直接聞けたときや作物がうまくできたとき」と、朗らかにそして熱く語ってくれました。

視察の受け入れも行っているとのこと。

農家の皆さんも、ぜひ訪れてみてはいかがでしょうか。  
(西尾沙織委員)

### 編集後記

今年も暑い夏がやってきました。猛暑日や酷暑日という言葉が、話題に上らない日がないほどです。

昨年6月には、事業者熱中症対策が義務付けられました。畑に出れば、日々の収穫や管理作業に追われますが、何よりも働く人の健康が第一です。作業環境や工程を工夫することに加え、2人以上で作業することが大切だそうです。とはいえ、農家にとってはなかなか難しい課題で、つい1人で草刈りなどに出かけてしまいがちです。これまで以上に、地域ぐるみで互いに気にかけるながら、安全に農作業を進めていきたいものです。

(西尾沙織委員)

## 老後の生活のサポートのため 農業者年金に加入しましょう

65歳未満

国民年金第1号被保険者  
(保険料免除者を除く)  
60歳以上は国民年金任意加入被保険者

年間60日以上  
農業に従事

の3つの要件を満たせば、どなたでも加入できます。

1. 安全性を重視した運用のため、少子高齢時代に強い年金です。
2. 終身年金で、80歳前にお亡くなりになった場合には、死亡一時金をお支払いします。
3. 公的年金ならではの税制上のメリットがあります。
4. 通常加入なら、保険料の額は自由に選べます。
5. 政策支援加入なら、保険料の国庫補助があります。



詳しくは農業委員会事務局までお問い合わせください。